

波山とたどる旅

完成披露無料試写会のご案内

どなたも無料でご覧いただけます。
出演者による舞台挨拶もございます
ので、ぜひお出かけください。

■■■■■ 上映スケジュール ■■■■■

【会場 1】茨城県近代美術館 地階講堂

1 月 18 日 (金) ① 15:00 ~ (上映のみ)
② 19:30 ~ (舞台挨拶あり)

2 月 26 日 (火) ~ 3 月 3 日 (日)
① 10:30 ~ (上映のみ)
② 15:00 ~ (上映のみ)

【会場 2】下館スピカ 6 階コミュニティプラザ

1 月 19 日 (土) ① 15:00 ~ (舞台挨拶あり)

【会場 3】茨城県陶芸美術館 1 階多目的ホール

1 月 20 日 (日) ① 10:30 ~ (舞台挨拶あり)
② 13:30 ~ (上映のみ)

1 月 22 日 (火) ~ 27 日 (日) ※休館日の 21 日は上映無し
① 10:30 ~ (上映のみ)
② 13:30 ~ (上映のみ)

〔映画・上映会に関する問合せ〕

● プロジェクト茨城

〒310-0851 水戸市千波町 3080
桜田門外の変ロケセット内
担当：小林
TEL：029-244-3941
FAX：029-303-0310

● 「陶芸女子」事務局

〒309-1611 笠間市笠間 2372-5
金澤美術内
担当：小松崎・八島
TEL/FAX：0296-71-7566
MAIL：jyoshi@tougei-web.com

主演：海老澤 佳奈（水戸市出身）
2012 年度 ミス日本 ミス着物



美しいものは強い思いからのみ生まれる



板谷波山没後50年記念事業 2012年度ミス日本ミス着物・海老澤佳奈主演

波山をたどる旅

出演——海老澤佳奈 佐藤拓馬 戸田浩二 谷口昭仁 加藤浩子 永峰来菜 戸田一歩 中島鳳晴
高橋秀翠 坏 美咲 かほっほ 榎木孝明〔友情出演〕 居川靖彦

インタビュー協力——村田あき子 板谷駿一 荒川正明 齊藤勝美 大西 勲 一木 努 金子賢治

監督 | 西川文恵 監修 | 荒川正明 制作 | ヴォストーク プロデューサー | 金澤大介 協力 | いばらきフィルムコミッション / 劇団水戸黄門 / 茨城県陶芸美術館 / 茨城大学 / 筑波大学 / 学習院大学 / きらら館 / 菊池寛実記念智美術館 / 板谷波山記念館 / しもだて美術館 / 佐野市立吉澤記念美術館 / 泉屋博古館分館 製作 | プロジェクト茨城 企画 | 陶芸WEB / 陶芸女子 写真 | 栗原秀典 / 吉津直人 題字 | 川又南岳

波山をたどる旅 公式ホームページ <http://hazan.tougei-web.com/>

陶芸WEBホームページ <http://tougei-web.com/>



金子賢治



大西 勲



荒川正明

20世紀を代表する作家——荒川正明「あらかわまさあき・学習院大学教授」

やきもので自分を表現した最初のひと——金子賢治「かねこけんじ・茨城県陶芸美術館館長・多治見市美濃焼ミュージアム館長」

二度と出てこないものを作っている——大西 勲「おおにし いさお・重要無形文化財 髹漆保持者」

芸術のために血と汗の努力をせよ——板谷波山「いたやはざん」

創作に悩む美大生のカナは、陶芸家・板谷波山の作品を知る。

波山に心惹かれたカナはその人生を辿っていく。

若い陶芸家との出会いによって

波山の作陶の神髄を理解していく…

波山をたどる旅の果てにカナが見つけたものとは…



海老澤佳奈



榎木孝明



葆光彩磁延壽紋様花瓶

監督・キャスト

「あぜみちジャンピンツ」で、シカゴ国際児童映画祭長編実写部門・準グランプリ、ロサンゼルス日本映画祭コンペティション部門・優秀作品賞、インドネシアKids Esos映画祭コンペティション部門・審査員特別賞、京都国際児童映画祭・グランプリ／観客賞のW受賞など、質の高い児童映画の作り手として注目を集める西川文恵監督が、陶聖「板谷波山」の人物像とその作品の魅力をかつてない切り口で描き出す。

2012年度ミス日本ミス着物に輝いた茨城県水戸市出身の海老澤佳奈が本作で映画初主演。何らかの道を志す若者なら誰しも体験するプレッシャーや不安と戦うヒロインを瑞々しい感性で演じている。

板谷波山研究の第一人者、学習院大学の荒川正明教授、美術評論家としても著名な茨城県陶芸美術館・金子賢治館長をはじめ、波山の愛孫、陶芸家・板谷波山の郷里である下館（現・筑西市）の方などが出演し、波山について語る。

板谷波山 略歴

1872年（明治5年） 茨城県真壁郡下館町（現・筑西市）に生まれる。本名嘉七。

1889年（明治22年） 東京美術学校（現・東京藝術大学）彫刻科に入學。

1894年（明治27年） 同校卒業。

1896年（明治29年） 石川県工業学校（現・石川県立工業高等学校）木彫科主任教諭として金沢へ赴任。

1898年（明治31年） 石川県工業学校の木彫科廃止に伴い、陶磁科を担当する。

1903年（明治36年） 東京高等工業学校（現・東京工業大学）窯業科嘱託となる。現在の東京都北区田端に住居と工房を建てる。郷里の筑波山に因み波山と号す。

1906年（明治39年） 初窯を焚き、日本美術協会展に「彩磁薊花花瓶」など3点を出品。

1914年（大正3年） 大正天皇即位記念東京大正博覧会の鑑査員を務める。同会に出品した「葆光彩磁孔雀唐草文花瓶」が金牌を得、宮内省買上となる。

1917年（大正6年） 日本美術協会展に「葆光彩磁珍果文花瓶」を出品。金牌第一席を受章する。

1927年（昭和2年） 東陶会結成、会長に推される。茨城工芸会結成、会長に就任。

1929年（昭和4年） 工芸家として初めて帝国美術院会員になる。

1933年（昭和8年） 郷里の高齢者に鳩杖を制作して寄贈し始める。（1952年頃まで）

1938年（昭和13年） 郷里の戦没者慰霊のために観音像や香炉を制作し、遺族へ寄贈する。（1956年頃まで）

1953年（昭和28年） 陶芸家として初めて文化勲章を受章する。

1963年（昭和38年） 死去。享年91歳。